

「エコリフォーム」で 「エコライフ」を実現

ナビゲーター
落合 伸光
Nobumitsu Ochiai

株式会社 家づくり工房

古材を利用して 自然な住まいを生み出す

地方都市で、歴史的景観を活かした町づくりにより成功している例は多い。埼玉県の川越市もその中の一つ。旧街道沿いに残る蔵を再生し、蔵の町、小江戸・川越として、多くの観光客を集めている。そうした昔ながらの住宅がまだ残る川越市の駅前にあり、『徹底して住む人の健康とエコロジーを考えたりフォームを施工している』のが家づくり工房である。

「今の家は、出来上がった時が一番よくて、年月を重ねるとどんどん価値が落ちていきます。当社では、そんな最初だけ華美な住まいではなく、自然の恵みを受けて育った、呼吸をし、なるべく健康に負担をかけない素材で、できれば将来リサイクルできるものを使用することで、使い込めば使い込むほど価値が出る建物づくりを目指しています」と落合伸光取締役は説明する。

自分の住まいは自分で作る、いわゆる『セルフビルド』も理念のひとつ。このほか、究極の自然素材として、古材・古民具展示販売スペース「埼玉古材ギャラリー」もオープンさせている。「ほんの五〇年前まで日本の住宅には、プラスチックのような物質は一切使われていませんでした。また、何代もの家族と共に時を刻んできたものだけが持つ味わいがあることから、積極的に古材を再利用しようと思いました」。



事務所内部の打ち合わせスペースには、説明用のさまざまな自然素材が置かれている



自然素材のリフォームを紹介しているパンフレット



集合住宅の集会所のリニューアル風景。「セルフビルド」の一環として、理事会の人々が最終的な壁塗りなどの作業を自らの手で行っている



家づくり工房では、フローリングなども自らの手で行えるように指導している

「エコライフ」という生活者価値

自然素材を使ったリフォームを求めている人たちのために、天然塗料などの素材見本なども置かれている「家づくり工房」の事務所兼ギャラリー



「家づくり工房」外観。



古材・古民具展示販売スペース「埼玉古材ギャラリー」には、関東はもちろん、東北まで足を延ばして集めた古材や古建具などが、所狭しに置かれている。普段はストックヤードになっているが、開放して販売会が開催されることもある

こうした古材を使うたりリフォームのニーズは拡大しつつあり、近年の環境問題への意識の高まりもあってか、今では東京都内からの注文もあるという。このように自分の手で古い素材を活かしてリフォームすれば、結果的に「エコリフォーム」となる。さらに、自分で作業の一部をすることでその分の工費が浮くという、経済的なメリットも生まれる。

落合氏が、今後も、積極的に風土に合った民家の考え方、現地再生、古材の素材利用を提案していきたいと考えています」と言っようにこうした「エコリフォーム」の普及が、資源の有効活用に繋がりが、それがまた「エコライフ」の実践にもなることは間違いないだろう。

(文責・CEL編集室)

CEL

株式会社家づくり工房

〒350-0046 埼玉県川越市菅原町23-11 菅原町ビル1F
TEL.0492-24-3361
URL: <http://www.iedukurikoubou.co.jp/>



手作りの良さや古材の魅力について語ってくれたナビゲーターの落合伸光氏



川越市の観光名所である蔵造りの町並み。江戸時代に耐火建築として造られた江戸の町の蔵造り商家にならり川越市でも建てられた。今の建物は、明治26年(1893)の川越大火をきっかけに修復されたもので、一番街を中心に個性のある街並みを形成している